

空港編（空の玄関に到着して）

リオデジャネイロには、空港が2つあります。

1)ガレオン（Galeão）国際空港：全ての国際便と主要国内便が発着。

リオデジャネイロ市内から北へ約15kmにあり、2つのTerminalで構成されています。

Terminal 1：昨年11月以降、同ターミナルにあった全てのエアラインはTerminal2に移動。

Terminal 2：LATAM, GOL, Star Alliance 加盟便, American Airlines, Emirates British Airways, Air France, DELTA, United Airline, TAP 等が発着。

2)サントス・ドゥモン（Santos Dumont）空港：主に近距離の国内線が発着。

リオデジャネイロ市の中心部にあり、リオーサンパウロ間のシャトル便(Ponte Aerea)等、主に近距離路線の国内線が発着。

当地に到着後空港内において、以下の点にご注意頂けるようお願い致します。

注意点

入国の際は出来る限りラフな格好で

出張者の中には目を引く背広姿で入国される方がいますが、業務に支障のない限り私服、背広着用の場合もネクタイ無し、上着無しでの入国をお勧めします。

ブラジルに不案内な出張者には、当地駐在員の送迎が望ましい

駐在員による送迎が不可能な場合は、

- ・ 信頼できる運転手による配車・送迎が必要（出張者に運転手の氏名、身体的な特徴を予め連絡しておく）。
- ・ 出迎えのプラカードは、英字での安易な偽造を避ける為、漢字表記が好ましい。

止むを得ず、TAXIでの移動を余儀なくされる場合、後述のTAXI編を参照願います。

出張前に必ず駐在員の連絡先、連絡方法を確認しておく

オフィス、自宅、携帯電話の番号を事前に確認し、不慮の事態に遭遇した際には速やかに連絡しましょう。尚、当地におけるコレクトコールのかけ方は、90・31（オペレータ番号、21でも可）・（市外局番：リオデジャネイロ市内なら21）・（電話番号）です。

リオデジャネイロ直行便を出来る限り利用する

サンパウロに到着し、国内線に乗り換えてリオデジャネイロに来られる場合、以下の注意が必要です。

- ・ リオへの接続便数は限られます。万一、予定していた接続便に間に合わない場合、リオへの到着が大幅に遅れて駐在員と落ち合えない懸念があります。
- ・ リオへの接続便が無い場合、サンパウロでグアルーリョス国際空港からコンゴニャス国内線空港(リオとの間でシャトル便が運航)まで無用なTAXIで移動する羽目に陥ります。

- ・ サンパウロ空港での入国審査は、他国からの到着便が同じ時間帯に重なることが多く、混雑して1-2時間待たされるといったケースも頻繁に起こっています。

(リオデジャネイロまで乗り入れる直行便の場合、入国審査はリオで行ないます)

従い、リオデジャネイロ直行便を利用の方が安心、便利です。

空港内の置き引きに注意し、自分の荷物から決して目を離さない

少しの油断や時差ぼけから置き引きされる事件が多発していますので、自分の荷物から目を離さないよう心掛けましょう。荷物が多くカートに大きなスーツケースを重ねて載せて、その上に小さめのバッグなどを載せた場合、目を放している隙に、小さなバッグを盗まれることも実際に起こっていますので注意しましょう。パスポートなどの貴重品は必ず身につける他、必要最低限の金額を入れた財布だけポケットから出し入れするに留め、それ以外のクレジットカード等貴重品は腹巻スタイル、或いはズボンの縫込内ポケット等工夫して保管しましょう。

ガレオン空港－市内を結ぶ街道(Linha Vermelha)は危険です。

ガレオン空港－市内を結ぶ街道(リーニャ ベルメーリャ等の幹線道路)の周囲にはスラム街が点在し、昼夜を問わず危険な地域のひとつです。警察による警戒は常時なされていますが、それでもスラム間の麻薬密売組織による抗争・銃撃戦による流れ弾での傷害事件や強盗の出没等が頻発し、空港への往復時は決して油断が出来ません。前述の通り、出来る限り当地事情に明るい駐在員による送迎をお勧めします。

ただ、出張者に対しては、駐在員の送迎の有無に拘わらず、早朝、深夜に到着/出発するフライトを避けて予定を組むように事前に打ち合わせてください。

また、一度に大勢の出張者の送迎を行う為のマイクロバスの使用は目立ち、犯罪者の格好の標的になった事件も発生しています。こういうバスの使用が止むを得ない場合、ボディガードの存在を想像させるような同伴車を随行させる工夫もお勧めします。

万一事件に遭遇した場合は、絶対に抵抗しない

事件に遭遇した場合に備え、直ぐに手渡せるよう200レアル(約60米ドル)程度の現金は携帯しておきましょう。

タクシー移動編（当地における移動中）

リオデジャネイロの治安状況を勘案すると、空港からの移動と同様に「RADIO TAXI※下記参照」の利用をお勧めします。「RADIO TAXI」と一般的な黄色いタクシーの差異として、「RADIO TAXI」の場合乗車日時から溯って運転手を割り出すことが容易である点が挙げられ、運転手側もこの点を十分認識しているので自らの行動を自粛します。尚、交通事情が劣悪であること、地理に不案内な為にファベラ（スラム街）に迷い込む危険があること等から、レンタカー等の利用はお勧め出来ません。

※「RADIO TAXI」…各社車のボディカラーが決まっています。代表的な会社は以下の通り。

Transcoopass（黒）Tel. 2209-1555 / 2209-1565 / 98112-8185 / 98112-8140

Coopatur（グレー/黒）Tel. 3885-1001 / 3885-1009/3885-1010/3885-1000 WhatsApp 98245-9732

Cootramo（青/黒）Tel. 3976-9944、ガレオン空港 3398-3751 / 3398-3752 / 3398-3040

Coopertramo（白）Tel. 2209-9292 / WhatsApp 98008-0055

Transcootur（緑/黒）Tel. 2590-2300 / 2590-2220

注意点

市内の移動には「RADIO TAXI」を利用する

「RADIO TAXI」の手配は宿泊ホテルのレセプションに依頼するか、当地駐在員に手配をお願いしましょう。宿泊ホテルのレセプションに依頼する場合、事前に道程及び所要料金を確認しましょう（支払後にはレシートを受領する）。また空港に到着の際、やむを得ずタクシーを利用する場合は、空港内のタクシーカウンター（到着口に数社あり）で「RADIO TAXI」の乗車券を購入して下さい。

UBERの利用も必ずしも安全とは言えません。

やむを得ず黄色いタクシーを利用する場合は下記に留意する

黄色いタクシーを利用する場合でも、タクシーポイント等に待機しているタクシーの利用をお勧めします。これは、相対的に運転手を特定しやすいこと、問題を起こせばタクシーポイントから追放されること等を認識している運転手が問題を起こす可能性が低い為です。

料金メーターが初期設定されているか、乗車時に確認しましょう。因みに、平日 21:00 迄の Tariff Category は"1"（基本料金）であり、平日の 21:00 以降早朝 6 時まで及び休日（終日）の Tariff Category は"2"、割増料金となります。但し、12 月は利用時間帯に拘わらず Category は"2"となります。また、タクシーが移動し始めたら、料金メーターがきちんと作動しているか確認し、作動していなければ運転手に指でメーターを指す等して作動を依頼しましょう。（たまに料金メーターの作動を忘れる運転手があり、移動開始時に指摘しない場合、後で料金に関して運転手と揉める可能性がある為です）

タクシーは自家用車に比べ盗難・強盗被害は相対的に少ないと言われますが、信号待ち・渋滞中に被害に遭うケースもあります。運転手席の窓も含め全ての窓を閉めるよう（エアコンを依頼する等して）依頼し、車内では所持品（特にパソコン等貴重品）を外部から出来るだけ見えない場所に置きましょう。

トラブルに遭遇した場合

万が一強盗事件に遭遇した場合、絶対に抵抗せず冷静に行動することが重要です。犯人が拳銃等の銃器を携帯していることを念頭に置いて、反撃したりすることなく、ゆっくりとした動作で行動する必要があります。慌てて内ポケットなどに手を入れたりすると、抵抗するものと勘違いされ、負傷させられたりすることにもなり兼ねません。一方、運転手とのトラブルを避けることも肝要です。遠回りをされたり、料金メーターの回転がおかしく不当請求されても、文句を言わず領収書を受領して言値を支払いましょう。

ホテル編（宿泊先）

注意点

人目を引く腕時計、膨らんだ財布、現金等は他人に見せない

窃盗犯がホテルの中で標的の目星を付け、外出の際に狙われる可能性があります。ホテルの中でも貴重品はなるべく人目につかないよう注意しましょう。

パスポート等の貴重品は金庫に入れて保管する

部屋の中も安全とは限りません。室内といえどもパスポート、現金等は出しっぱなしにせず、部屋に備え付けの金庫に入れて保管しましょう（鍵をかけたスーツケースに貴重品を入れていても決して安全とは言えません）。

部屋に滞在中は必ず施錠する

部屋に居る時はきちんと内側からロックし、訪問相手を確認するまで、決してドアを開けない（ホテルの部屋で強盗に入られる可能性あり）。

手荷物から決して目を離さない

ホテルの中でも、貴重品の入った手荷物類からは目を離さないようにします。ホテルでの盗難の内、多くはチェックイン・チェックアウト時に少し目を離した隙に実行されていますので、手荷物はカウンターの上に置くように注意を払いましょう。

水道水は絶対に飲まない

ブラジルの水道水は飲料に適さないので、冷蔵庫のミネラルウォーターを飲むようにします（歯を磨く程度の水は水道で問題なし）。ミネラルウォーターは *SEM GAS* が一般のミネラルウォーター、*COM GAS* が炭酸入りです。尚、僻地へ出張する場合は、A型肝炎の菌が入っている場合も考えられる為、歯磨き等もミネラルウォーターで行う事をお勧めします。

病気

就寝中に気分が悪くなった場合はフロントにその旨を告げ、ホテルが契約している医師(英語対応可)に診てもらう事をお勧めします。或いは、現地駐在員に連絡を取って日本語の話せる医師あるいは入院の手配をしてもらう事も出来ます。

強盗に遭遇した場合

万が一強盗事件に遭遇した場合、犯人が拳銃等の銃器を携帯しているかどうか関係なく、絶対に抵抗せず冷静にゆっくりと行動することが重要です。慌てて内ポケットなどに手を入れたりすると、抵抗するものと勘違いされ、負傷させられることにもなり兼ねません。

レストラン編（外食時）

注意点

レストランには素早く入る、入り口で待たない

周囲に不審な人物がいないか確認の上、乗降車は素早く行います。自家用車で移動する場合、マノプリスタ(店側が用意する駐車係)を利用して明るい人目のつく場所に駐車させましょう。また夜間の駐車場とレストランとの間の移動は、一人で歩かない様にしましょう。集団に囲まれスリや恐喝に遭った例もあります。また、帰りに外でマノプリスタを待っていると目立ち、ひったくりや追跡強盗の標的になる可能性もあるので、マノプリスタが車をレストラン正面に寄せ付けにするまでは、室内で待つと良いでしょう。

人目を引く装身具はレストランに入ってから身に付ける

高価な装身具（時計、指輪、ネックレス等）を外食時に身につける場合は、ハンドバッグ等に入れて持ちこみ、レストランの中に入ってから身につけましょう。又、バッグに入れてからレストランを出ます。

レストランの店内においても置き引き等に注意する

手荷物（特にハンドバッグ）は椅子の背もたれ等他人のアクセスが容易なところには置かず、常に目が充分に届くところに置きます（上着を脱ぐ場合も同様）。クレジットカードで支払いを行う場合、カードのクロナーゼン（スキミング）等悪用されるケースがあるので注意しましょう。

レストラン強盗に遭遇したら抵抗しない

レストラン店内に強盗が侵入した場合、犯人は通常「逃げる人物に対し発砲する」ので、急な動き／行動をとらず、周囲の状況を見ながら犯人の要求に従うことを念頭において落ち着いて行動するようにしましょう。犯人に状況を制圧されてしまった際には、他の人から目立たない様に集団に紛れながら行動しましょう。

歩道の席で食事をする場合

歩道に出したテーブルで食事する場合は歩道に直接面したテーブルは避け、内側にあるテーブルに座りましょう。特に足元・テーブルの上・座席の上においたバッグ・携帯電話・上着等のひったくりには充分注意しましょう。また食事中に物乞いや浮浪少年（少女）が寄ってくる場合もありますので周囲には充分注意しましょう。（もし浮浪少年（少女）がしつこい場合には、店員（ガルスン）に注意をお願いすれば、追い払ってくれます。また、小銭や余った食べ物、ジュース等を与えるのも控えましょう。）

市内遊歩編（主に観光時）

注意点

散策は日中のみとし、単独での行動は避ける

夜間（暗くなった後）における徒歩での外出は避けます。単独での散策は極力避け、同行者を伴う複数で行いましょう。散策する地域は人通りが比較的ある所に限り、コパカバーナ以南の南部地域以外は原則避けます。また、後ろからのひったくりを牽制する為、散策中でも時々後ろを振り返る動作が効果的です。また、路上強盗の80%は少年犯罪なので、歩行中、周囲に怪しい少年（または少年グループ）がいないか注意を払うことも重要です。男の二人乗りのバイクや自転車にも注意してください。

貴重品の携行は控え、華美な服装、装身具（含む高級腕時計）の使用は避ける

貴重品は携帯せず、現金も必要最低限の金額をポケットに数箇所に分けて入れましょう。因みに、ひったくり犯罪が最も多いのはコパカバーナ海岸通りです。カメラを持参するときはコンパクトなものを心がけると共に、バック等にしまい外から見えないようにします。携帯電話・スマートフォンをやむを得ず携帯する場合は、人目につかない場所で使用することをお勧めします。歩きスマホは強盗遭遇リスクの観点で極めて危険です。特に iPhone は狙われるので要注意です。また、華美な服装、装身具の使用は避けましょう（女性の装身具などは、目的地の屋内に到着してから身に付ける）。

海岸で散歩する際は十分注意する

上記の通り時間帯、服装、携行品等に留意するとともに、特にコパカバーナ海岸の波打際は一段低くなっているため（大通りから死角になっている）、強盗等の犯罪が多発している所以要注意です。また、万が一、銃声が聞こえたらまずは身を伏せて、様子を見て屈んで速やかに避難しましょう。

砂浜にしばらく滞在する際は十分注意する

イパネマ海岸ではアハストン（少年の集団強盗）が起こる危険性があります。そのため、土曜日、日曜日、祭日は多数の警官、パトカーが海岸で待機し警備にあたっています。できるだけ警官またはパトカーの近くにいることをお奨めします。

見知らぬ人間に話しかけられても相手にしない

物乞いや Street Children に話しかけられた場合は相手にせず、速やかにその場から立ち去ります。観光案内や食事の同伴を申し出る人物が現れても相手にしてはいけません。万一強盗やひったくりなどの犯罪に遭遇してしまった場合、決して突然逃げ出したり、追いかけたりなどの抵抗をしてはいけません。ナイフや銃器らしきものを突きつけられた場合には、現金などがある場所（上着の内ポケットなど）をゆっくりと示し、相手の指示に従います。バイクや自転車によるひったくりも多発しており、特に男性2人乗りのバイクは要注意です。歩道でも車道に近い所を歩くときは気をつけましょう。

人ごみの中では最大限の緊張をする

リオではカーニバルを始め、コンサート等たくさんの人が集まるイベントがありますが、そのようなところに行く場合はなるべく質素な服装とし、カメラ/ビデオは持参せず、常に前後左右を見回し不審な人物が近寄ってきていないか警戒を解かないことをお勧めします。またポケットに蓋/ファスナーがついていない場合は、人ごみの中で一瞬の内にポケットに手を突っ込んで中の現金を抜き取るスリもいますので、「ポケットに手を突っ込んで」ガードしておくことをお勧めします。また、歩きながらの携帯電話・スマートフォンの使用は、ひたたくりに遭うリスクが高いためやめてください。どうしても必要な場合は、近く建物の中に入ってから行ってください。

クレジットカードやキャッシュカードを利用する場合

クレジットカード詐欺事案が多発していますので、キャッシュカードやクレジットカード等の使用は、十分注意して下さい。店舗やレストランでカード支払をする際は、クレジットのカードリーダーは必ず目の前で操作してもらいようにしてください。また、暗証番号の入力が必要な場合は、他の人に見られないよう極力手で隠して入力してください。

銀行等のATMを利用する際は、出来るだけ夜間の利用は避け、周囲に不審な人物がいないか確認の上利用して下さい。ATMでお金をおろした直後に強盗に遭うケースが多発しています。また、スキミング被害防止の為に、銀行の店外にあるATMは極力避けてください。やむを得ない場合でも、ショッピングセンター等の比較的警備が行き届いている建物内のATMとしてください。ただし、空港内のATMは出金後に後をつけられるリスクがあるのでお勧めできません。また、銀行内にあるATMを利用する場合でも、暗証番号を手で隠す等十分に注意してください。

人との待ち合わせは、路上ではしない。

友人などとの待ち合わせ場所は、ショッピングセンター、スーパーマーケット、薬局などの建物の中としてください。日本のように路上で、携帯電話にて、友人に位置情報を伝える行為は、ひたたくりなどの強盗に遭う危険性があるのでやめてください。

市内交通編

注意点

車優先社会であることを認識する

- ・ 横断歩道でも、たとえ歩行者側の信号が青信号でも必ず左右の安全を確かめる。
- ・ 歩道を歩行中でも駐車場/ガレージの入口では車両の飛び出しに要注意。
- ・ 側道の出入口では、歩行者が避けることを前提にスピードを落とさない為、要注意。

市内路線バスの利用は絶対に避ける

以下理由により路線バスの利用は絶対に避けること。

- ・ 停留所でバス待ちの際には強盗に遭遇する危険性あり。
- ・ 拳銃等の凶器を使った強盗やスリが時間帯を問わず発生。
- ・ 麻薬密売組織抗争に絡んだバス放火も多く発生。

万が一利用せざるを得ない場合は、相対的に安全なバス会社、路線、時間帯等の情報を充分収集し、貴重品を携行せず目立たない服装で乗車すること。

地下鉄利用の留意点

リオの地下鉄は比較的安全と言われているが、乗車の際は犯罪対策に留意すること。

- ・ ホームへの電車入線時の思わぬ接触事故（安全対策のための駅員はホームに少なく、電車入線時のケアはしてくれない）
- ・ 混雑時のスリ、乗車口付近での発車間際の携行品のひったくり等
- ・ 駅の出入口付近は人ごみになっている場所が多いので要注意。
- ・ 車内での強盗事件も発生しているので夜 08:00 以降の利用は避ける。

道路横断時の注意点

極力横断歩道を利用すること。横断歩道のない道路を横断する場合は以下留意すること。

- ・ 十分に左右の安全を確かめてからすばやく横切る。
- ・ 車が渋滞している場合は、車の間をバイクが高速で走って来る可能性があるので要注意。
- ・ 渋滞中の車の前を横切るときはドライバーの目を見ながら握った手の親指を上へ突き出す「OK/Thank you」ジェスチャーを行うと停車中の車の急発進が避けられる効果が期待できる。

自家用車運転編

注意点

リオにおける安全運転の基礎知識の確認

- 1) 飲酒運転はご法度（罰則あり）
- 2) 夜間運転の差し控え（夜間は事故や犯罪の遭遇の割合が増加）
- 3) 道路事情の認識（劣悪な舗装状態、大雨の際は水はけの悪い場所に留意）
- 4) 交通事情の認識（劣悪なマナー：信号無視、割込、方向指示器未使用等）
- 5) 車両点検（年1回の法定点検と整備を怠りなく）
- 6) 22時から翌朝5時までは原則信号無視可能の慣例となっているが、交差点に入ってくる相手車に注意

交通事故発生時の基本的な対応を確認しておく

- 1) まず冷静に事故状況を確認し保険会社へ連絡。事情に応じ警察、病院にも連絡（携帯電話・連絡先は運転時に常時携帯一本手引「参考情報編」参照）
- 2) 負傷者の救護等人道的行為とは別に、当たり屋（子供も多い）等に注意。
- 3) 相手の身元確認が出来る迄は、個人情報提供は極力回避。

運転中の犯罪への基本的な対応を確認しておく

- 1) 未然防止策
 - ① ストリート強盗への対応
 - ・ 施錠の徹底、サングラスの使用、窓にフィルムを張る
 - ・ 交差点や信号等で停止の際は一定の車間距離を保ち周囲の状況に留意する。
 - ・ 中央分離帯がある道では、最も左の車線は避ける
 - ・ 危険地域の認識と回避（移動ルートの情報収集）、ラッシュアワーの回避
 - ・ 高額な現金を所持しない。通常の財布とは別の場所に高額現金を入れる。
 - ② その他
 - ・ 高級車の使用はできるだけ避ける。又、防弾車の利用を推奨
 - ・ 路線によっては銃撃戦が多発するので、周囲の状況に絶えず注意を払う。
- 2) 犯罪発生時の対応
 - ① 絶対に抵抗せず、犯罪者に対する「協力」姿勢を明示する。
 - ② 犯罪者の顔・目を見ない（犯罪者は顔を覚えられる事を嫌がる）。

アパート/住居編

注意点

一軒家に住まない

複数の世帯が居住するアパートに住む場合、治安の悪いリオでは、通常 高い柵で囲ったアパートの玄関(出入り口)にポルテイロという管理人(門番)がおり、24 時間体制にて外部から出入りする人のチェックや管理を行います。ポルテイロは居住者への訪問者がある場合も、当該居住者に対し、訪問者をアパート内に入れて良いか、通常インターフォン等で必ずチェックします。また複数の世帯が居住している為、外出したとしても、当該居住者が留守とは分かりにくく、強盗にとっては狙いにくくなります。一方、一軒家の場合は 24 時間、専門の門番が見張るといふ訳にはいかない上、外出したか否かが分かりやすい為、強盗に目星をつけられると逃げにくい欠点があります。

人目を引く腕時計、膨らんだ財布、現金等の携行

普段は頼りになる管理人(門番、清掃夫等)ですが、中には出来心を起こす人物もいないとは限りません。こうした人物に出来心を起こさせない為にも、普段からアパートの出入りの際でも人目を引く腕時計、膨らんだ財布等を持ち歩き、他人がそれを認識出来る様な状況は避ける様に注意しましょう。

パスポート、TC、大金等の貴重品は人目に付かない場所で保管する

アパート・ホテルや駐在員宅には、メイドも出入りします。信頼の於けるメイドでも、目の前に大金が置いてあれば出来心で窃盗を働くという事もあり得ます。従ってアパートや自宅の中でも、貴重品は他人の目の付かない所に鍵を掛けて閉まっておく等、予防策を取る様にして下さい。

自宅に滞在中は必ず施錠する

通常、アパートのドア(玄関)はオートロックになっておりますが、もしオートロックになっていない場合は、必ず施錠する様にしましょう。

不審電話

ブラジルでは時折、見知らぬ人から電話がかかってきて、本人が名乗らないのに名前や住所等こちらに聞いてくる事があります。こうした場合、迂闊に名前、家族構成、住所等を答えると、後日狙われたり乃至は恐喝電話(家族に子供がいる場合には、子供が外出している時間に誘拐したなどと嘘を言って恐喝するケース)がかかってくる場合があります。不審電話には決して答えない様に徹底願います。またメイドに対しても、不審電話には答えずすぐに切り、決して住民(自分を含む居住家族)が電話のかかってきた時に家にいるか否か等含め、何ら情報を相手に与えない様に徹底しておく事が望まれます。

また、不審電話が繰り返しかかってくる場合は、無視して常に留守電設定にする、乃至は管理人に不審人物は決してアパート内に入れない様に徹底する事を依頼する等、予防策を取る事をお勧めします。

強盗に入られない為に

ブラジルではスーパーマーケットやピザ、薬屋などの宅配が多く、こうした人物は多数アパートに出入りします。その為、こうした宅配人に化ける強盗もいます。

一方、門番からのインターフォンで、うっかりメイドが勘違いしてこうした宅配人の訪問を受け入れ、自宅の戸を開けて対応するケースもあります。この様な場合、宅配人を装った強盗は、自宅の戸が空くや否や、自宅の中に入り込み強盗に変身します。同様のケースが最近頻繁に発生しており、斯様な被害を可能な限り避けるために、メイドには不審な人物からのコンタクトがある場合は、一切アパートの門内に入らずに門番経由で対応する様、徹底しておく事が必要です。

また、強盗団が門番を制圧し、アパート内を不法占拠する事があります。この様な場合に強盗に遭う事を避ける意味でも、見知らぬ人がアパートのドアをノックしても、応対しない様にしましょう。(普段の生活に於いては門番が出入りする人を管理している為、見知らぬ人が予期せずアパートのドアをノックする事はあり得ません。)

万一、強盗に入られたら

万一、住居内に強盗が侵入した場合、犯人は通常「抵抗する人物に対し発砲する」傾向がある為、抵抗したり急な動き／行動はとらず、周囲の状況を見ながら犯人の要求に従うことを念頭において行動するようにしましょう。また犯人が金銭を要求する場合、貴重品が全て一箇所に閉まっていると全て明け渡さなければならない可能性が出てくる為、万一の事を考え、予め幾らかの現金は別の場所へ分けておき、有事に強盗に手渡せる様にしておいた方が無難です。強盗よりナイフや銃器らしきものを突きつけられた場合には、予め分けておいた現金などがある場所をゆっくりと示し、相手の指示に従いましょう。

参考情報編

緊急時の連絡先

○在リオデジャネイロ総領事館：

Praia do Flamengo, 200 – 10 andar, Flamengo Tel: 平日) 3461-9595 緊急時) 99811-4532

○軍警察： 190

○文民警察：

・第5文民警察署 (セントロ)

Av. Gomes Freire, 320, Centro Tel: 2332-8110 / 8100 / 8190

・第9文民警察署 (カテチ)

Rua Pedro Americo, 1, Catete Tel: 2334-3971 / 4126 / 7209

・第10文民警察署 (ボタフォゴ)

Rua Bambina, 140, Botafogo Tel: 2334-8085 / 8073, 2332-7906

・第12文民警察署 (コパカバーナ)

Rua Hilario de Gouveia, 102, Copacabana Tel: 2332-7914 / 7916 / 7900 / 7913

・第13文民警察署 (イパネマ)

Av. Nossa Senhora de Copacabana, 1260, Copacabana Tel: 2332-2030 / 2018, 2247-0359

・第14文民警察署 (レブロン)

Av. Humberto de Campos, 315, Leblon Tel: 2332-2866 / 2877 / 2865

○ツーリストポリス (DEAT)：

Av. Afranio de Melo Franco, 159, Leblon 2332-2924 / 2332-2885 / 2332-2889

○消防及び救急車： 193 (注：私立病院に行く場合は、直接病院にご連絡ください)

別添1：犯罪被害統計 (2008年～2017年)

別添2：病院リスト (2018年)